

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、運営者のごくあたりまえの身近な思いを表わし、掲げている。「その方にとっての普通の暮らし」を常に意識し目標にしている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今一度、『理念』について深く考え、全職員と意見を交わし合い、思い切って、理念の表現を変えた。実践している職員一人一人に届き、一人一人の力が発揮しやすい様につくりあげた。三ーティング、苑内研修時にも話し合い、目標を共有し実践に向けて取組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族とはご入居の際には必ず理念としてご理解頂いている。地域の方にも機会があれば実践を伝える努力をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的買い物や散歩に出かけている中で、挨拶を交わしたり、庭の植木や草花の育て方を教えて頂いたり気軽に声を掛け合えるきっかけ作りに努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りや盆踊り大会などに利用者と共に積極的に参加している。地域交流会や地域ネットワークのふれあい喫茶にも積極的に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々から認知症や介護についての相談を受けた際には事業所での実践内容や培ってきた成果を伝える試みをしている。人材育成のための実習生受け入れや認知症キャラバンメイト登録など地域に貢献できる取り組みを心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回の評価時期が点検の好機会と捉えている。都度に改善点を確認し、それに向けての努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	予定行事や活動内容の報告、前会議で取り上げられた検討内容事項や改善事項の経過を話し合い、活動内容の評価と苑への要望・助言を頂き、参考にさせて頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課のケースワーカーとの課題解決は連携がスムーズであるが、介護保険課からのご参加を都度申し出ているが連携は困難。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方には活用できる支援を行っている。制度についても積極的に学ぼうと努め、活用に向けての選択肢としても提示できる様に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーフレットを冊子にし、マニュアルとしている。	○	高齢者虐待防止関連法を定期的に学び確認していきたい。常日頃から状況の検討を重ね、事業所内の周知徹底を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、重要事項の説明と共に事業所の方針とケアへの取り組み、起こりうるリスクについて、利用者と家族、事業所との共通認識となるように詳しく説明し同意を得ている解約時にも同様に今後の方針を十分に話し合っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の立場に立った運営やケアができる様、ご様子から思いを察することが出来る様、務めており、その都度、思いに傾聴している。玄関先に『ご意見箱』を設置しご意見を頂ける状況作りに努めている。</p>	<p>ご不満やご意見を掘り起こし易い様、一对一の時間を大切にしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>特変な状況があればお電話で様子を報告し、ご家族の来訪の機会に合わせて、利用者の体調や最近のご様子について話している。個人の介護記録を合わせて見て頂いている。又、金銭管理に関しては、出納帳にて用途を明確に管理。定期的に報告し、ご家族来訪時には確認印を頂いている。</p>	<p>ホームページの立ち上げ完成間近。定期的、又は随時に近況報告が発信できる準備を進めている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見や苦情に対し、真摯に受け止め、問題解決に向けて話し合い、改善に向けて取り組んでいる。地域運営推進会議での事実報告にも努めている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族同士のお顔合わせやお話出来る機会を提案し、家族会発足に向けての検討と利用者・苑の活動へのより一層の関心とご協力を頂ける様に努めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>普段の何気ない会話の中からも意見や提案・要望を聞き出せるよう心掛けている。働く意欲向上に繋がる様に努力している。ミーティング時に意見を出し易い環境作りに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の要望と状況に応じて勤務時間の設定を変化させたり、個別対応できるスタッフ人員を定数以外にも配置している。また、管理者は通常シフトに入っておらず利用者の状態変化や緊急にも対応でき、随時の要望にも応え易い。職員の急な休みにも対応可能である。運営者も積極的に苑の活動に参加しており、利用者の要望に即時に対応、職員の緊急な交替にも対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「馴染みの関係作り」を意識しながら、各ユニットの職員の完全固定に努めている。職員交代や離職が利用者の不安やご家族への信頼を崩さない為にも十分な引き継ぎ期間を設けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの能力や実績に見合っ法人外研修を積極的に受講させ、苑に持ち帰り他のスタッフへ反映させている。苑内研修にてスタッフへ知識共有と日々のケアに繋げていける様、毎月、その時期に必要な周知事項を研修内容として検討・実施。</p>	<p>大阪市グループホームネットワーク、平野区グループホーム連絡会主催の勉強会には出来る限りの人員で積極的に参加している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワーク、平野区グループホーム連絡会に加入。サービスの質の向上、職員育成に向けて、各主催の勉強会、他事業所間・他事業所現場スタッフ同士の交流と意見交換の場にも出来る限りの人員で積極的に参加しており、実践ケアに活かせる様努力している。</p>	<p>他事業所との協力連携の元、事業所見学や体験実習を試みている。他事業所の活動状況を目で見ることにより、自事業所のサービスを見直す機会となっている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>希望休の実現・シフトの調整、職員間の関係を把握し利用者との関係も踏まえた上で、できる限りの対応をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が向上心を持てる働きかけを考えている。資格取得に向けた配慮と支援を行っている。運営者も現場を知るため頻りに苑に来ており、利用者や職員と過ごす時間を大切にしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談にて直接利用者の自宅へ出向き生活状態を把握できるように努めている。安心してご契約して頂ける様、2泊3日の体験入居を利用して頂いた上でご入居に至れるよう配慮している。</p>	<p>選定材料の一つとしてじっくり吟味して頂くため、体験入居を積極的に進めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご相談を受けた際即、何かしらの対応をする様に心掛けています。当苑の空きが無く対応出来ない場合には連絡会のネットワークを利用して他事業所の情報を提供できる様にしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、本人と家族の真のニーズと、当サービス・当苑を利用されることが適切であるのかを照らし合わせてお話を進めていく様に心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、本人と家族に事業所見学して頂ける様願っている。納得あるご入居である為、体験入居の期間を設けており、2泊3日と限定しているが、状況を判断した場合馴染んで頂ける兆しが見えるまで、家族と相談しながらその限りでない期間の延長をさせて頂くこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『利用者とは人生の大先輩』『主体は利用者』を念頭に置いている。利用者、職員の関係だけでなく、人対人、共に支え合える関係作りを目指している。『喜・楽』は勿論、『怒・哀』を生きる中で当り前の感情として捉え、不安や辛さへの理解と共感に努めている。利用者の生活歴に触れ、様々な方面で教えて頂く場面が多く、そういった場面設定支援をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご来苑の際、利用者の様子や状況の変化、支援の取り組みについて報告している。ありのままの状況を伝え、ご家族に対して必要な協力を得られるように事前に報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊でご家族と共に過ごす時間が持てるようにすすめることや、苑に来て頂きやすい雰囲気作りを心掛けている。イベントの機会には家族を誘い、本人との関係や繋がりを持ち続けることができる支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や喫茶店へ通って頂いている。ご近所さんや友人が遊びに来られたり、本が好きで近くの図書館へ通われる方もいらっしゃる。1人ひとりの人間関係や習慣が継続することが出来る支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った利用者同士で過ごして頂ける様にハード面での工夫と場面作りに努め、それを遠くから見守る姿勢を実践している。 ティタイム・食事時間を職員も共にし利用者同士の会話を持てるよう支援。毎朝夕の申し送り、カンファレンスで関わりの様子や内容についてスタッフ間の連携と情報共有し、話題を保てるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご転居先を訪ねたり、苑内のイベントにお誘いしたり、ご本人にとって、前居であった歴史と繋がりを大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。コミュニケーションを通じて表情や会話の中から希望や意向を汲み取る様に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりで自身の語られる言葉の中から、また、家族の語り、互いの会話の中から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が一人ひとりの生活リズムを把握できる様に努めている。日々の申し送りの中で身体面や病状の変化、精神的変調を伝え合い、経過を追いながらケアをすすめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で現状を確認し、本人・家族からの情報を元にご本人の暮らしに沿った課題をカンファレンスで意見交換し、介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の介護計画の見直し実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がより生きいきと記すことができる様、本人が何をみてどんなことを感じるのか、本人が行動するきっかけと実際行動をダイレクトに記すことができる様式にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	フリーという余裕のある人員配置により、より多くの要望に柔軟に対応している。その瞬間に感じた行動を制限しない支援に重点を置いて実践に努めている。		一緒に生活している二匹の犬の存在も大きく、精神不安時に愛おしく犬を抱きしめ、安定を取り戻される様子や犬を相手にお話やお昼寝をされる様子、ボール投げで汗を流される様子もあり、人形やぬいぐるみでは感じて頂けない役割を担っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ふれあい喫茶の利用は頻度が高く、地域の祭りや催し事に積極的に参加し、地域に暮らす一員としての自覚を支援している。認知症勉強会なども参加して頂ける様に支援しており、近くの図書館を頻繁に利用されていることなど地域資源活用を充実できている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のサービス事業所のケアマネジャーや専門職との情報交換できる機会を大切にしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見が必要である利用者の支援協力は得ている。事業所内、介護保険制度内で解決できない問題について随時相談するようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な緊急時体制を整え、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのない対応を徹底できる意識向上を図っている。個人情報取扱に関し、全職員に守秘義務等の周知徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	主体は利用者にあることを日頃から念頭に置き支援している。表情での汲み取りに努め、自己決定できる場面を多く持ち、受容の姿勢と体制、選べる環境を整えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性が重視できる支援を心掛けている。今までの生活歴を尊重し、個人の生活を大切にしながら共同生活を営める様に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行き慣れた馴染みの美容室を利用されている。又、苑の活動をご理解下さっている。女性であれば外出時には、化粧を施し、いつまでも女性である気持を持ち続ける支援、気分転換の支援を心掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えることから始まり、食材購入～後片付け迄を一連として考え、各々の力に添った役割を持ちながら食を楽しんで頂けることに努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾患や身体状況、衛生面の管理が行える範囲で出来る限りの希望に副える様に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムやパターンを探るため、排泄チェック表を付けている。個々の排泄リズムの把握に努めている。おむつの使用や失敗をなるべく減らすことができ、トイレでの排泄が保てる様支援。皮膚トラブルを防ぐなどの利点や本人希望で布パンツをはき続けることが出来る様支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の思いや希望を最優先している。それ以外では、身体の皮膚状態の観察が必要な為、定期的な入浴の予定は立てているが、順番の希望を聞いたり、一日の予定の中に組み入れる支援をしたり、その他、個々のスタイルを保つ為の要望を柔軟に取り入れている。次に入る方の為に使用された浴室の掃除をされる姿もみられ、入浴の場面にも社会性が伴った暮らしの実現を支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し生活リズムを整える様に努めているが一人ひとりの生活習慣を尊重し、各々の休息方法を取って頂ける様に支援している。不眠は精神面に大きく影響するので、睡眠の質と時間を申し送り合わせ確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケや車での遠出外出、外食や銭湯、女性でも顔剃りに理容室へ行くなどの個々の趣味・気分転換法趣味を取り入れ、レクリエーションの機会も作っている。二匹の犬とのふれあいや散歩で商店街を有意義に歩くなど気晴らしが出来る機会を図っている。		生活動作の力に沿い、生活歴に合わせ、個々の得意な事で力を発揮できる役割を持てるよう支援している。役割が張り合いに成り、自身に繋がる支援を心掛けている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は清算時の計算と支払の機会を持って頂いている。理解の力に応じて支出計算を日記に付け、管理して頂く様支援している。		社会貢献できる自信を維持して頂きたいと考え、個々の持ち続けた能力を支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今までの生活の継続で思いついたときに行き慣れた店に買い物やお茶を飲みに行かれたり、図書館へ行かれたり、気軽に戸外へ出かけられる環境を作っている。花の季節にはお弁当を作り公園で広げたり、盆踊りや祭りに参加したり初詣参拝など季節を感じて頂ける支援を続けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力も頂きながら実現できる様心掛けている。	○	ご家族の積極的な協力と関心を頂きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の家族の受入れが可能な時間帯にはご自由にお電話を使用して頂ける様に支援している。 利用者の希望に応じて年賀状などを出すための支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族をお客様扱いせず、一緒に関わって頂く様にしている。 来苑する家族は「利用者の家へ遊びに来た」気持を持って頂ける様本人が家族を出迎え、お茶を入れて接待できるよう働きかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時、身体拘束防止についての話し合いを行い、常日頃から拘束のないケアを心掛けている。		疑問があれば相談し合える体制作りに努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	主に玄関は施錠している。利用者の状況に応じて職員の心構えと連携の下、開錠する場合もあるが、基本的に施錠している。しかし、玄関施錠に関しては弊害を感じておらず、逆に不審者の侵入を防ぐ手段としても考えている。居室の施錠に関しては職員側から施錠することは無く、プライバシーを感じたら施錠される本人の意思に任せている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアが見通し良く、自然に安全を見守ることが出来る。夜間には2時間ごとの巡回実施で安全を確認するが、行動された際にもすぐ対応できる様に安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険要因を考慮しながら薬品などの保管場所を変更していることなど、個別のリスクについても検討し、対応している。		2回/日の日誌確認欄でチェックできる体制を実践。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット報告を共有に認識し、事故を未然に防げる様検討と対策を考案している。 レンジ周り床には防火タイルを使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制を整備している。	○	応急手当、急変時の対応法を職員が習得できる機会を検討。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火避難訓練を2回/年実施しており、火災発生時の通報手順・避難経路・消火方法など全職員、全利用者参加の下訓練を行っている。	○	事業所内だけの訓練と考えず、隣家・地域住民の参加と協力を得ながら訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活動作の自立における危険性を家族と共通の認識として理解し同意頂き、対応策のヒントと協力を頂いている。実態や問題点を含めケアプランに載せ説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の関わりとコミュニケーションの中で普段と違う様子や毎日のバイタルチェックにて異変を早目に気付くことが出来る様に努めている。異変の際には、直ちに管理者、計画作成担当者に報告し、必要に応じ医療へ連携している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の定期・臨時処方最新の薬情をファイル化し、使用している薬の目的や注意事項を全職員がいつでも見れ、理解しやすい状態にしている。医師から薬の変更や追加指示があれば、変更・追加理由と目的、回数と期間、注意事項を申し送り共有し誤薬や飲み落としのない様に努めている。又、投薬に変化を付けた方の経過状況を現場から直接医師へ報告し連携できる機会もある。		薬剤師の先生にご協力頂き、勉強会を実施して頂くなど、全職員に対し服薬管理の重要性を意識付けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の食事・水分摂取量、運動量、排泄の量・形状を比較し考え、働き掛けていける様、職員の意識とスキルの向上を目指している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自身で義歯管理している方、すぐに紛失してしまう方等それぞれ個々の有する力に合わせた支援をしている。毎食後の歯磨き誘導・口腔ケア実施、毎晩の洗浄を促し支援を行っている。歯科医との連携、口の中の健康と食事の楽しみに繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を記録している。状況の良し悪しを申し送りで話し合い、情報として共有している。個別のバランスについても把握に努めている。体調や認識力、嚥下状況に応じて食べ易く、飲み込み易い形状を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	まな板・包丁・布巾など、調理器具を每晚ハイターに漬けおき消毒している。使用後に洗った食器や鍋類を乾燥機にて熱処理し、調理台などはアルコール消毒している。日々に冷蔵庫を整理整頓し、賞味期限・食材管理の徹底を図っている。申し送り事項としての取り決めをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・布巾など、調理器具を每晚ハイターに漬けおき消毒している。使用後に洗った食器や鍋類を乾燥機にて熱処理し、調理台などはアルコール消毒している。日々に冷蔵庫を整理整頓し、賞味期限・食材管理の徹底を図っている。申し送り事項としての取り決めをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間トップライト点灯しており、どんな時間にもお立ち寄り頂き易くしている。季節に応じた玄関装飾、庭園に緑と花、トールペイントの看板を掲げ、来客を2匹の犬が迎えてくれる親しみやすさを工夫している。玄関先は日当たりが良く広い、洗濯物や布団干しに最適の場所として一般家庭と変わりのない生活感を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの採光が良く、気候がわかりやすい。草花が多く、季節を感じ、五感に伝わることも多いと考える。季節ごとのイベントと共におやつや食べ物にも季節感に配慮している。庭を散歩し、花を摘み、それを食卓に飾るなど情緒深く感じる場面も多い。利用者の手作りの物や気に入った物を飾ったり、居心地易さに工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭先に椅子とテーブルを置き、独りで庭の散歩や腰を下ろし、緑に囲まれ過せる空間場がある。玄関先でも心地よい風を受け静かに過ごす事が出来る。気の合った利用者同士で食事をしたりお茶を飲んだりできる工夫もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。あえて、新しいものは必要ではないことを伝え、説明している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物自体に窓が大きく多い、オープンな空間である為空気のおよみを感じることは少ない。日誌に室内の温度・湿度を2回/1日定時の記録項目を設けている。湿度調整、換気や空調管理が体調管理への必要性を共通認識できるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作に合わせて居室の家具配置を考えている。立ち続けることが困難な方にも炊事場に入って頂ける様、調理・配膳台として高さの合った机を設置している。平衡感覚や筋力が衰えていても食事準備の参加が配膳ワゴンを使い、積極的にできる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	記憶の交差など混乱が見られた場合、問題点に着目し、混乱が軽減するような支援を勘案している。ゆっくりと説明、何度でも説明、わかりやすい表示など実施している。成功体験を実感し自信を持ち続けることが出来る様支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ゆったり散歩、ピクニック感覚で弁当を抜げることが出来る程大きな庭と芝生がある。草木、花々、家庭菜園で豊富な野菜を楽しんでいる。大根、インゲン豆、なすびなどの収穫で年中の季節を感じることができ、大変活用出来ている。掃除の一環として落ち葉拾いや草むしり、犬と触れ合ったり、イスを並べて過したり出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人が長年培って来られた歴史を振り返りながら、ご自宅で制限された能力を再現して頂ける様、支援の方針をたて、日々取り組んでいる。平野という地域性の高い町で利用者が個人としていかに地域貢献できる存在か、ご自身の存在、誇りを維持して頂ける働き掛けを実践している。スーパーや商店街へ目的のある買い物外出、自己決定と役割を持ちながら利用者中心の生活が出来る様に取り組んでいる。

一年を通して季節に応じた行事の実行、定期的な地域の集まりへの参加など様々な場面で人との交流が大いにある。又、菜園があり皆で成長する喜びを感じ、収穫期には食卓に並ぶのを皆で楽しみにしている。

二匹の犬の存在も大きく、「世話をしなげないとならない存在」として共に暮らしている。犬が利用者に散歩やボール遊びをせがむ様子、それに答えて下さる姿が日常にある。精神不安時に愛おしく犬を抱きしめ、安定を取り戻される様子や犬を相手にお話やお昼寝をされる様子、人形やぬいぐるみでは感じて頂けない役割を担っている。

「感じたことに行動できる」環境をつくり、支援している。